

活字文化公開講座

絶望を書く、希望を描く
～芥川賞、直木賞作家からのメッセージ～

小野正嗣氏の芥川賞、西加奈子氏の直木賞受賞から1年。
両作家を招き、改めて小説を書く、読むことの魅力について考えます。

日時

2016年
1月21日(木) 18時30分 開演

会場

立教大学池袋キャンパス内
タッカーホール(池袋駅 徒歩7分)
(東京都豊島区西池袋3-34-1)

※当日は聴講券もしくは立教大学在学生(学部・大学院・セカンドステージ大学)は学生証ご提示で入場いただけます

プログラム

第一部

「異文化と創作」

小野正嗣氏、西加奈子氏がそれぞれフランス、中東での暮らしから得た異文化体験が創作活動にどのような影響を与えたのか。また創作意欲をかき立てるモノやコト。

小説を書く動機とは何かについて語り合ってください。

第二部

「言葉と感性」

文学に関心のある学生数名を交えて、小野作品・西作品の魅力を探ります。感性を磨くために必要なこと、表現力を伸ばすためにどのようなことを心がければよいかなどについてお話いただきます。

小説を敬遠する若者が増えているなか、小説を読む意味について考えます。

講師(作家)



©講談社(撮影・森清)

おの まさつぐ 小野 正嗣氏

〈プロフィール〉
1970年大分県生まれ。作家、仏語文学研究者。東京大学で学んだ後、パリ第8大学で博士号取得。2015年「九年前の祈り」で芥川賞を受賞。現在、立教大学文学部文学科文芸・思想専修准教授。



(撮影・若木信吾)

にし かなこ 西 加奈子氏

〈プロフィール〉
1977年イラン・テヘラン生まれの大阪育ち。2004年に『あおい』でデビュー。2015年「サラバ!」で直木賞受賞。著書に『舞台!』ほか、エッセイ集「まにまに」、最新刊の絵本「きみはうみ」など多数。

コーディネーター

石田 汗太

読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局専門委員